



ご挨拶

一般社団法人日本体力医学会理事長

鈴木政登

平成27年9月19日開催の第70回（一般社団法人）日本体力医学会年次総会において、第10代日本体力医学会理事長として承認されたことに因み、ご挨拶申し上げます。本学会は平成26年4月1日付けで一般社団法人日本体力医学会となり、代表理事（理事長）、副理事長、常務理事からなる執行役員制度が新たに設けられました。

本学会設立は第二次大戦後の昭和24年であり、旧学術研究会議医学部門の共同研究班であった体力、疲労、労働衛生および栄養研究班のメンバーが構成員となって設立された学会であります。ここで再び、体力医学会設立に至った経緯を振り返り、国民の健康問題および運動・スポーツの現状を鑑み、今後の本学会運営の参考にしたいと思います。

明治維新後、日本人の姿勢の悪さや体位・体格などが西欧人に比べ著しく劣っていることを嘆いた欧米帰りの医学者たちは日本国民の体位・体力増強のための啓発活動¹⁾を始めます。最初に、わが国に“身体運動の医学的研究”を普及させたのは川瀬元九郎であると言われております。川瀬元九郎はボストン医科大学卒業後ボストン体操師範学校でスウェーデン体操を学び、1900年に帰国しました。帰国後、東京築地病院（現 聖路加国際病院）内科勤務の傍ら日本体育会体操学校で生理衛生学を担当し、生理解剖学的理論を背景としたスウェーデン体操の普及に尽力したことが川瀬の業績集²⁾に記載されております。わが国において“体力に関する医学的研究”が組織立って行われるようになったのは国立体育研究所（初代所長 北豊吉、1924年創設）開所以降と言われております。“国民の体力を向上させ、心身の能率を高めるため、国民の体育を根本的に研究し、その改善を図ることに必要な諸研究を行う”ことを目的として設立されました。この頃は、純粋に日本国民の体位・体格および健康増進を意図した研究活動であったと思われれます。この研究所は1941年に廃止され、1960年に再び東京教育大学体育学部付属スポーツ研究所（初代所長 名取礼二 東京慈恵会医科大学生理学教授）として復活し、筑波大学への移転まで続いたことは周知のとおりであります。

1931年（昭和6年）の満州事変を契機に、国防を背景とした体力研究班が作られ、1938年4月4日には京都帝国大学で開催された日本医学会総会臨時分科会として“体育医学会”が開催されております。この頃から終戦までは、自由闊達な運動・スポーツ活動は制限され、国防に基盤を置いた国民の体格・体力増強に関する研究が主となり、さらに1940年には“国民体力法”が制定され、“スポーツ医学”というよりは“体力医学”研究が重視されたことが窺われます。この期間は兵力としての国民体力増強を目的とした研究期間であったと思われれます。

第二次世界大戦終了直後には、国民の体力低下、栄養不良による抵抗力低下に起因した感染症防止策としての栄養学的研究の必然性も加わり、体力、疲労、労働衛生班および体育協会医事部のメンバーなど、スポーツ医学に関心ある研究者が構成員となって“日本体力医学会”が設立されました。当初の会員数は約400名で、その殆どが医療関係者でありました。その後、医学のみならず体育科学、栄養学、心理学など、多領域の研究者からなる学際的研究者集団へと進展し、平

成27年9月19日現在の職種別会員構成は、医師646名、体育関係者1,262名、栄養士212名、看護師40名、理学療法士498名、その他1,771名の合計4,429名となっております。

戦後“日本体力医学会”として発足した本学会は、スポーツ医学が大きな部分を占めるという事に因み、欧文名を“Japanese Society of Sports Medicine”とされたようですが、その後“The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine”に改称されました。さらに、第4回日本体力医学会年次大会からは、国民体育大会（国体）行事の一環として国体開催地（第6回国民体育大会、広島市1951年）で行われるようになりました。昭和30年および50年には体力医学会を年2回開催し、国体および体力医学会いずれも今年第70回大会を迎えるに至りました。本学会の機関誌を“体力科学”とした理由については、医学に限定せず多領域の研究者による学際的研究会という意図を込めて命名されたことが体力科学創刊号³⁾に記載されております。

1970年代以降、急速な経済成長に伴い衣食住等生活環境が豊かになり、国民の健康問題は感染症から生活習慣病など慢性疾患へと変遷し、戦時中の国策としての国民の体力・健康増進対策から“自分の健康は自分で守る”という方針に転換され、1978年（昭和53年）の“第1次国民健康づくり運動”から次々と“健康づくり施策”が出され、平成14年には“健康増進法”が公布されました。“健康増進法”第2条には“健康な生活習慣の重要性に対する関心と理解を深め、生涯に亘って、自らの健康状態を自覚すると共に健康の増進に努めることが国民の責務である”と謳われております。また、昭和63年から厚生省による“健康増進施設”認定制度が始まり、平成27年4月現在までに327施設が認定されております。“健康体力づくり事業団”による運動指導者養成も行われ、平成27年4月現在で、健康運動指導士と同実践指導者併せて約38,000人が養成されております。さらに、平成24年7月には、第2次健康日本21として、第4次国民健康づくり対策が策定され、引き続き“健康寿命”の延伸が主要課題となっております。これら数々の健康づくり施策、健康増進施設の認定および運動指導者養成にも拘わらず、働き盛りの者の身体活動不足、脂肪摂取比率の増加などに起因した肥満・糖尿病および動脈硬化症などの生活習慣病罹患者に加え、加齢に伴うロコモティブシンドロームや認知症患者が年々増加し、医療・介護費用などの医療経済的負担増をもたらしております。これら現代における国民の健康阻害要因排除策の1つが幼若齢時からの“運動の習慣化”であることは周知の事であります。しかし、2015年度国民栄養調査によりますと、運動習慣保有者は20～59歳までの男性では13.1～24.1、女性では12.9～20.7%に過ぎません。60歳以上では男女共約35%以上に増加することから、現在のわが国の労働形態では“運動の習慣化”の困難さが窺われます。“自分の健康は自分で守る”という国民個々人の意思を尊重した健康施策ではありますが、労働形態など個人の努力では克服し難い現状にあります。“超高齢化社会への道を歩みつつあるわが国において、国民一人一人が生涯にわたり元気で活動的に生活できる、明るく活力ある社会の構築のため、国民の健康寿命を伸ばすことを目標”とした“新健康フロンティア戦略”なども労働形態を含めた現在の社会環境状況下では“隔靴搔痒”の感は免れません。健康増進活動推進のための環境（施設）整備のみならず、個々人の“行動変容”を促す行動医科学的アプローチの推進や小児期から高齢期までのライフステージにおける身体運動の必然性を説く機会として、体力医学会地方会における市民公開講座開催等を支援して参ります。さらに、マスメディアや多種多様な健康産業から発せられる健康情報氾濫による健康被害を回避すべく、刊行物を介して国民に正しい健康情報を還元することなども体力医学会の新事業と考えております。

新理事長として、とくに力を入れて取り組みたい事業は次のようなこととあります。

1. 編集事業について

本学会では、機関誌“体力科学”を年6号(回)発行し、現在64巻5号(2015年10月1日現在)まで発行されております。英文誌(The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine: JPF-SM)は、2012年5月25日付けで創刊号(第1巻1号)を発行し、現在までにVol. 4, No. 4(2015年9月25日現在)まで発行されております。機関誌の欧文誌化は本学会の長年の悲願でありました。JPF-SM誌発行の目的は、わが国の“体力ならびにスポーツ医科学に関する研究成果”を広く海外に紹介し、健康・体力向上に貢献すると共に、本学会会員の研究水準の高さを認知せしめることなどであります。しかし、米国トムソンロイター社調べによる2012~2013年までの2年間にJPF-SM誌に掲載された論文数(162件)に対し、引用件数は17件と少なく、ジャーナル収録条件を満たしていません。JPF-SM創刊以来、論文投稿数が増加しているにも関わらず、2015年9月現在でも受理された原著論文数が少なく、掲載論文の殆どはReview ArticleおよびShort Review Article論文に依存せざるを得ないのが現状であります。唯、明るい兆しとしてはJ-STAGE統計によります、2014年1年間の“JPF-SM”誌へのアクセス件数が20,224件から2015年には70,772件と、3.5倍に増加したという事実であります。いずれにしても、本学会員の皆様は言うに及ばず、東南アジア諸国からの投稿を促す方策を模索・推進していかねばならないと考えております。

2. 学術刊行物の発刊について

現在、本学会編集委員会ではACSM出版の翻訳本“運動処方指針(原書第8版)”を南江堂から出版しておりますが、1998年に“スポーツ医学-基礎と臨床-”(朝倉書店)を出版して以来、本学会からは機関誌以外の学術刊行物を出版していません。しかし、本学会には、運動・スポーツに関わる健康科学に関する膨大な知見の蓄積があります。これらを広く国民に還元することも本学会の役割の1つと考え、学術刊行物の発刊を計画しております。この刊行物の読者層の中心として臨床の医師を考えております。わが国の医学教育カリキュラムには“身体運動と健康または運動指導等に関連する内容”は殆ど含まれておりません。そこで、“臨床医の卒後教育”という観点から、“臨床医のための運動指導書”のような学術刊行物の出版を考えております。

3. 研究倫理の問題について

2000年1月1日以降の投稿論文については、所属施設の倫理委員会の承認を受けていない論文は受け付けないことになっております。2012年10月創刊のJPF-SMについても同様であり、今日まで8件の論文が受け付け段階で返却されております(外国4編, 国内4編)。平成27年5月15日改定の倫理規定第3条(1)項によれば、本学会会員からの審議要請があった場合、審議しなければならないことになっております。所属施設に倫理委員会がある場合には、その所属施設の倫理委員会の承認を受けることが必須条件であります。民間団体や各種スポーツ施設等において、研究倫理委員会が設置されていない場合には、本学会の倫理委員会に審査を依頼できるようになっておりますが、本学会倫理委員会では倫理審査を受け付けておりません。本学会倫理委員会規定に従い、倫理審査要請があった場合、対応できるよう準備を進めて参ります。

4. 臨床系医学会との連携強化について

本学会渉外委員会は、臨床系医学会との連携を模索して来ております。一般社団法人日本体力医学会は、身体運動による健康の維持・増進を意図した医・科学的研究を推進しているわが国唯一の学術団体であります。その研究成果を臨床系医学会において活用して頂くよう、働きかけるこ

とも本学会の重要な活動の1つと思われます。従来、この方面の活動に傾注して来なかったという反省は免れません。先に挙げました、臨床医を対象とした“学術刊行物”の出版も臨床医学会との連携の1つとして実行して行きたいと考えております。

5. 東京オリンピック・パラリンピック支援について

1964年に東京で開催された第18回オリンピック大会に向けて、1960年に“東京オリンピック選手強化対策本部”が設置され、“スポーツ科学委員会”部門では、当時の日本体力医学会会員が主たるメンバーとして関わったことが記録されております。一方、2001（平成13）年4月に“国立スポーツ科学センター（JISS）”が設置され、わが国のスポーツ選手の競技力向上を目標として活動しており、発展途上にあった1964年の東京オリンピック当時とは状況が大きく変わっております。日本体力医学会としては、2020年開催予定の“東京オリンピック・パラリンピック”に向けて、特別に競技団体からの要請がない限り競技力向上を目指したプロジェクト研究等の立案予定はありませんが、その前年頃に国際的なスポーツ科学研究会等を企画し、本学会員の健康・スポーツ科学研究成果を披露する機会設定は考えております。

その他に、男女共同参画、学際的ならびに国際的な学会連携などは前理事会と同様今後も引き続き継続していく積りでおります。本学会員の皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

引用文献

- 1) 栗原 敏, 鈴木政登, 清田 寛. 日本の体力医学の源流と変遷. 体力科学63(2): 247-257, 2014.
- 2) 川瀬治通. 「黒川治愿・川瀬元九郎」の生涯と業績. 2011.
- 3) 浦本政三郎. 体力医学の学問的環境. 体力科学1(2): 1, 1951.

故 竹 宮 隆 先生
の ご 逝 去 を 悼 む



故 竹 宮 隆 先生

筑波大学体育系

教授 西 平 賀 昭

竹 宮 隆 先生 略 歴

1935 昭和10年 3月11日	石川県羽咋市で出生
1957 昭和32年 3月	東京教育大学体育学部健康学科卒業
1961 昭和36年 4月	東京女子医科大学助手 (第1生理学教室)
1968 昭和43年10月	医学博士 (東京女子医科大学)
1970 昭和45年 4月	杏林大学講師 (医学部生理学教室)
1972 昭和47年 4月	杏林大学助教授 (医学部生理学教室)
1974 昭和49年 8月	文部省私学在外研修 (スウェーデン・ルント大学, 米国・ジョンズホプキンス大学, カナダ・モントリオール大学, 50年2月まで)
1976 昭和51年 4月	杏林大学大学院医学研究科 (博士課程生理学担当)
1979 昭和54年 5月	筑波大学助教授 (体育科学系生理学担当)
1980 昭和55年 4月	筑波大学大学院体育研究科 (修士課程, 適応生理学担当)
1984 昭和59年 3月	筑波大学教授 (体育科学系)
1994 平成6年 4月	筑波大学大学院体育科学研究科 (博士課程, 運動生理学II担当)
1998 平成10年 3月	筑波大学教授定年退任
1998 平成10年 4月	筑波大学名誉教授
2001 平成13年 4月	日本体育大学教授 (体育学部体育学科)
2005 平成17年 4月	八戸学院大学人間健康学部長
2006 平成18年 4月	日本体力医学会名誉会員

竹宮先生は、平成27年(2015)10月4日(日)ご家族に看とられてご逝去されました。享年80歳でした。先生は昭和10年(1935)3月石川県羽咋市でお生まれになっています。先生と雑談すると、能登の自然環境は、冬は温暖、夏は低温の海岸性気候に恵まれた優しい環境であったが、大寒の自然環境は凄まじいものがあり、住民はこの自然の優しさと激しさに適応しなが

ら伝統の神仏の教えを生活の基本にして生きていて、この私もそうであったと話しておられました。先生はこのような環境にある石川県立羽咋高等学校で駅伝選手として青春を思い切り謳歌して、昭和25年に第1回全国高校駅伝大会に出場しています。成績はあまりふるわなかったらしいですがその経験を基に将来は大学で体育・運動・スポーツ科学の学問をやるうと思っ

たそうです。東京教育大学体育学部入学以後は今日の先生の研究につながる筋末梢循環研究を目指すこだわりを持ち続けていたと後に語っておられました。

先生は骨格筋の運動性微小循環適応に関心を持ち、運動時の筋血流増大現象 (exercise hyperemia) とそのメカニズム解明を追求してきました。その中で、局所の筋血流と同時測定の出静脈血ヘマトクリットは筋活動の開始数秒から顕著に増大し、また反復して現れる結果も得ていました。このメカニズムについては hemoconcentration の立場から、他は hemorheology の両面から研究を推し進め、前者は組織側への水移動の重要性があることを推察しておりました。筑波大学での定年までの研究は局所電極法により骨格筋の両端に存在する腱組織および腱周辺組織の血流が運動のメカニカルな作用で顕著に増減する事実を突き止め多くの国内外の専門機関誌に論文を公表しておられました。

先生は東京教育大学を卒業してから約9年東京女子医科大学の助手になっております。そこでは酸素運搬系に関する研究に従事しています。ある日学生の生理学実習が終わり後片付けをしているとき特に生きのいいヒキガエル心臓標本に錯体を注入したら摘出心臓の周辺は乾燥気味であったが洞結節や心房が拍動を続けている事実を見だし、それにヒントを得て、「酸素運搬体 bi-histidinato-Co のヒキガエル心筋に対する positive inotropic action について」と題する学位論文を書き上げ昭和43年(1968)東京女子医科大学より医学博士の学位を受けております。

先生と日本体力医学会の関係に言及してみますと、先生は昭和45年(1970)評議員に、1991年から平成18年(2006)まで理事に就任されており日本体力医学会に多大な貢献をされています。その間総務委員長、評議員選考委員長などの重職を歴任されております。先生はそれ以外にも日本体力医学会関東地方会の運営にも長く関わっておられまして、「西平君、現在日本体力医学会関東地方会が滞りなく運営されているのは私がそっと協力しているからだよ」と少し誇らしげに語っておられました。

私が初めて竹宮先生を知ったのは東京教育大学体育学部3年次の時、先生担当の「労働生理学」の授業を受けたときでした。英語のテキストを持ってこれ各自、割り振られた章を訳しその概要をみんなの前で発表するということでした。当時田舎から出てきた私としてはたまげてしまいました。その後先生と筑波大学で教員として一緒するとは夢にも思っていませんでした。筑波大学では体育専門学群の学生に生理学、修士課程の学生には適応生理学、博士課程の学生には運動生理学の講義を担当され、講義が分かりやすく、話がうまいので学生には大変人気のある講義でした。また体育科学系では学系内行政にも携わり体育専門副学群長として体育専門学群の教育・学生指導にも多大な貢献をされています。

先生のもう一つ特筆すべき業績としては日本運動生

理学会を創設したことです。平成4年(1992)日本運動生理学会設立の趣意書に「運動生理学の研究は基礎生理学の知識を単に活用するだけでは十分とは言えず、運動課題を目標においた基礎研究やそのメカニズム研究が求められています。競技体力、生活体力、栄養、運動処方、運動療法、運動指導の生理学的研究などはそれぞれが私どもの大きな研究目的であり、そのためにはこれに至る段階を踏んだ個別的総合研究がさらに強力でなければなりません。また運動生理学の研究者は、国の内外を問わずこれまで以上に広く深く知識の円滑な交流を図る必要に迫られています。専門研究者の最も新鮮な情報交換の場は学会であり、学会誌であります。我が国はこれと同名の学会はありません」と学会設立の動機の一つを格調高く歌いあげています。日本運動生理学会は平成5年4月(1993)にスタートし、初代会長が故石河先生、初代副会長が故中野先生、そして初代理事長が竹宮先生でした。いずれの先生も日本体力医学会の理事として活躍された方々でした。

平成10年3月(1998)竹宮先生が定年を迎えられる年に金沢で開催された第75回日本生理学会大会にご一緒したおり、能登にある先生の生家を研究室の大学院生らとともに訪問した思い出があります。広い田畑を見下ろす、少し高台になったところに先生の生家があり屋敷も広く家の後ろには大きな杉の木がたくさん並んで立っていました。「西平君この杉の木を一本売れば大学の授業料が出るんだよ」と冗談交じりに話されていたことが思い出されます。近くには金沢藩の前田家の墓石があり、自然あふれる環境で先生はたっぷり詩情を育てて頂いたと語っておられました。そのような風土を持つ「ふるさと」から東京に出た先生は、大学では徹底的に学問を求めたそうです。そして学ぶことはこんなに楽しいものかと思ったそうです。大学卒業後4年間は研究室に残って勉強する機会を得たが無給のつらさもあわせて味わったと話されていました。先生は大変な努力家で使命感あふれた方でしたので、先生の好きな「海ゆかば」について「この歌には現代の社会にも通用する使命感すなわち止むにやまれぬ任務を達成しなければならない感情が表現されている」と時々つぶやいておられました。

筑波大学定年後に勤めた日本体育大学も退任後、八戸学院大学の新設学部の学部長として赴任し不慣れな環境のもとで無理をして体調を崩されたとご家族は話されていました。平成19年(2008)第9回学術功労賞受賞の賞状と盾をお持ちして自宅をお伺いしたおりはまだお元気でした。その時の元気なお姿が、私が見た先生最後の姿でありました。筑波大学では私と先生の研究室が隣り合わせでしたので時々、夕方になると「西平君、もう勉強はいいのでは、そろそろ飲みに行こうよ」とよく声をかけられました。もう二度とその誘いの声が聞けないのが大変寂しい限りです。竹宮先生、いろんなことで大変お世話になりありがとうございます。心からご冥福をお祈りします、安らかに眠り下さい。

第71回日本体力医学会大会のご案内（第2報）

第71回日本体力医学会大会は以下のように準備を進めております。発表の登録および学会誌「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMS) NO.6」一般発表抄録の原稿提出はすべて大会ホームページ上で行います。本大会の一般発表への応募は学会員に限りませんが、共同研究者は学会員でなくともかまいません。

なお、学会の最新情報は第71回大会ホームページ (<http://tairyoku71.umin.jp>) をご覧ください。

記

1. 会 期：平成28年9月23日(金)、24日(土)、25日(日)
2. 会 場：いわて県民情報交流センター「アイーナ」
(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)
盛岡地域交流センター市民文化ホール「マリオス」
(盛岡市盛岡駅西通2-9-1)
3. 大 会 長：立身 政信 (岩手大学保健管理センター 教授)
4. 大会事務局：岩手大学教育学部保健体育科
第71回日本体力医学会大会事務局
事務局長：上濱 龍也
〒020-8550 盛岡市上田3-18-8
TEL：019-621-6521 FAX：019-621-6521
E-mail：kamihama@iwate-u.ac.jp
運営事務局：〒020-0857 盛岡市北飯岡1-5-5
有限会社 ヤマダプランニング
担当：八重畑 茂
TEL：019-635-6011 FAX：019-635-6033
E-mail：tairyoku71@yamada-planning.co.jp
5. 大会プログラム (予定)
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表 (口頭発表・ポスター発表)
 - (8) 学会賞受賞講演
 - (9) ランチョンセミナー
 - (10) 県民・市民公開講座
 - (11) 持久走大会
 - (12) その他

参加登録方法

1. 参加登録の方法

大会に参加するには参加登録が必要です。参加登録方法は、事前登録および当日登録があります。事前登録は大会ホームページ上で、当日登録は大会会場受付で行います。なお、事前登録され、大会参加費を納入された方には大会開催前に予稿集、大会参加証をお送りいたします。

2. 大会参加費

学会会員	事前登録	一般	10,000円	学生	5,000円
	当日登録	一般	12,000円	学生	7,000円
非会員		一般	12,000円	学生	7,000円

※非会員の参加登録は当日登録のみとさせていただきます。

3. 事前登録

(1) 事前登録期間

平成28年4月1日(金)～7月29日(金) 正午まで

(2) 事前登録方法

事前登録はホームページ上で受け付けます。大会ホームページの参加登録のバナーから、案内に従い登録を行って下さい。

第71回学会大会ホームページ：<http://tairyoku71.umin.jp>

※オンライン登録以外の登録はありませんので、ご注意ください。

(3) 事前登録の参加費支払い方法

大会参加費は、オンラインでの参加登録システムにおいて、①クレジットカード、②銀行振り込み、のいずれかの方法でお支払い下さい。

(4) 当日登録方法

事前登録をされていない会員、非会員の方が本大会に参加する場合は当日登録をしていただくことになります。大会開催期間中は、受付に当日登録所を設置しますので、必ず登録をお願いいたします。

※学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくてもかまいません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

国際セッションの演題募集のお知らせ

日本体力医学会では、ヨーロッパスポーツ科学学会（European College of Sport Science, ECSS）をはじめとする海外の学会との相互交流を促進し、学会員の学術レベルを高めることを目的として、若手研究者を中心とした交流事業を平成11年度より実施しております。

今大会でも日本と海外の研究者の参加による「国際セッション」を開催いたします。発表形式は約15分～20分（質疑応答を含む）の口演の予定で、使用言語は英語です。発表を希望される方は以下の要領でご応募下さい。

【応募資格】

45歳以下の日本体力医学会会員

【応募方法】

1. 抄録作成要項

抄録は英文3,000文字以内（タイトルと演者、共同演者名、所属機関名は含めませんが、スペースは含みます）とし、Microsoft Wordで作成して下さい。図表は使用せず、参考文献は抄録の最後に記載して下さい。

2. 送付方法

作成したファイルは電子メールに添付し、masashi@u-gakugei.ac.jp宛に送付して下さい。電子メールの本文中には氏名、所属機関名、連絡先住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレスを記載して下さい。

3. 締め切り

平成28年5月27日(金) 正午まで

【連絡先】

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学教育学部芸術・スポーツ科学系健康・スポーツ科学講座

日本体力医学会国際セッション係

担当：宮下 政司

E-mail：masashi@u-gakugei.ac.jp

TEL/FAX：042-329-7622

【選考方法】

日本体力医学会渉外委員会で審査し、応募演題の中から原則として3演題を選出いたします。

【結果通知】

選考結果は直接本人に通知いたします。

演題応募方法

【登録資格】

演題登録ができるのは、会員番号を持つ日本体力医学会員に限ります（会員番号は会員名簿に記載）。共同研究者は学会員でなくてもかまいません。非会員の方は、日本体力医学会ホームページからオンラインで、入会手続きを行って下さい（自動返信メールで会員番号が通知されます）。FAX・郵送の場合は入会手続き後、会員番号がお手元に届くまでに数週間かかりますので、お早めの手続きをお願いします。

●入会申し込み・問い合わせ

事務局：一般社団法人日本体力医学会

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル 4階 学会支援機構内

Tel：03-5981-6015（学会専用） Fax：03-5981-6012（学会支援機構）

E-mail：jpsfsm@asas.or.jp

【登録方法】

演題登録開始：平成28年4月1日(金) 正午から

締切：平成28年5月19日(木) 正午まで

一般研究発表は、口頭発表とポスター発表の2種類です。発表予定者の方々は発表形式の選択を行って下さい。ただし、口頭発表には限りがありますので、希望に添えない場合があります。発表形式の決定は実行委員会に一任させていただきますことをご了承下さい。発表形式の決定は演題採択時にお知らせいたします。なお、発表者としての一般研究発表への登録は、会員1名につき1演題に限ります。共同研究者としての演題登録は、何演題でもかまいません。

演題登録は大会ホームページ上で演題応募のタブをクリックし、案内に従って進めて下さい。最初に演題登録した際に自動的に演題登録番号が発行されます。また、登録者ご本人に任意のパスワードを決めていただきます。登録番号とパスワードは、登録の変更と、後日の「JPFISM NO.6」掲載用抄録の登録に必要になりますので忘れることのないようご注意下さい。

大会ホームページURL：<http://tairyoku71.umin.jp>

<本大会より一般研究発表された演題の抄録は英文とし学会誌「JPFISM NO.6」に掲載します>

※英文抄録は発表者各自でネイティブチェックを受けることを推奨します。

「JPFISM NO.6」の掲載用抄録の登録期間

開始 平成28年8月上旬（採択通知到着後から）

締切 平成28年9月29日(木) 正午まで

締切を過ぎると「JPFISM NO.6」への抄録の掲載ができません。

【その他】

- (1) 会員の使用コンピューターの問題で演題応募ができない場合でも特別の配慮はいたしません。
- (2) 登録番号、パスワードに関するお問い合わせにはセキュリティーの関係上応じられません。
登録番号とパスワードは大切に保管して下さい。
- (3) トラブル発生などの情報は、ホームページ上に随時掲載いたします。

平成27年に査読をお願いした先生方は次の方々です

赤 滝 久 美	金 久 博 昭	角 田 直 也	藤 井 宣 晴
赤 間 高 雄	河 合 俊 英	富 樫 健 二	藤 井 康 成
綾 部 誠 也	北 浦 靖 之	富 田 秀 仁	前 田 明
荒 尾 孝	北 畠 義 典	富 田 益 臣	正 木 宏 明
井 澤 修 平	木 目 良 太 郎	鳥 居 俊	町 田 修 一
井 澤 鉄 也	久 代 恵 介	内 藤 久 士	丸 山 敦 夫
石 原 昭 彦	越 中 敬 一	中 垣 内 真 樹	湊 久 美 子
市 橋 則 明	後 藤 一 成	長 野 明 紀	宮 下 浩 二
浦 辺 幸 夫	後 藤 寛 司	永 松 俊 哉	三 好 扶
江 崎 和 希	小 林 寛 和	鍋 倉 憲 治	本 山 貢
遠 藤 隆 志	坂 本 静 男	成 田 和 穂	森 丘 保 典
大 島 秀 武	笹 井 浩 行	難 波 秀 行	森 本 茂
大 森 一 伸	笹 田 周 作	西 多 昌 規	柳 谷 登 志 雄
岡 浩 一 朗	真 田 樹 義	西 端 泉	山 口 太 一
尾 方 寿 好	重 松 良 祐	西 山 哲 成	山 口 光 國
小 木 曾 一 之	征 矢 英 昭	沼 尾 成 晴	山 口 幸 生
奥 津 光 晴	高 橋 将 記	野 坂 和 則	幸 篤 武
小 熊 祐 子	宝 田 雄 大	八 田 秀 雄	吉 武 康 栄
春 日 晃 章	田 中 茂 穂	原 田 和 弘	和 気 秀 文
片 山 敬 章	田 中 千 晶	引 原 有 輝	渡 邊 航 平
加 藤 え み か	谷 本 道 哉	平 山 邦 明	渡 邊 裕 之
門 田 吉 弘	玉 木 啓 一	広 瀬 統 一	渡 邊 賢
金 岡 恒 治	千 野 謙 太 郎	福 島 教 照	渡 邊 裕 也

第27回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。今回から基礎コースのプログラムに「運動による認知症の予防・改善」を加えました。実習は救急救命法、健康者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、障害予防・機能回復の筋力トレーニングおよびテーピングなどです。アスリートを対象とした研修内容ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会非会員の方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

尚、実習を行う関係上、各年度の参加人数に制限がありますことをご了解ください。多数の方のご参加をお待ちしております。

平成27年11月21日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

山内 秀樹 太田 真 木村 真規 進藤 大典 成田 和穂 湊 久美子 山口 真紀

1. 会 場

東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室など

2. 日時および研修内容

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。

平成28年7月1日(金)

9：00～10：30	運動と神経・筋
10：40～12：10	運動と呼吸
12：10～13：10	昼休み
13：10～14：40	運動と代謝
14：50～16：20	運動と栄養
16：30～18：00	運動と循環

平成28年7月2日(土)

9：00～10：30	運動処方の基礎
10：40～12：10	生活習慣病の運動処方
12：10～13：10	昼休み
13：10～14：40	高血圧および心血管疾患の運動
14：50～16：20	運動器疾患の運動処方
16：30～18：00	運動による認知症の予防・改善
18：15～	懇親会（会費3000円、参加自由）

(II) 応用コース

基本的な運動指導の実際について学びます。実習では自転車エルゴメータによる運動負荷試験をもとに運動処方を作成します。また、呼吸機能検査、体組成測定法、テーピングや筋力トレーニング実習も行います。

平成28年8月5日(金)

- 9:00～12:10 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験，心電図記録，呼吸機能検査，体組成測定実習）
- 12:10～13:10 昼休み
- 13:10～17:00 救急救命実習（人体模型を用いた実習）

平成28年8月6日(土)

- 9:00～12:10 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し，実施させる）
- 12:10～13:10 昼休み
- 13:10～17:00 スポーツ障害に対するテーピングおよび筋力トレーニング実習

平成28年8月7日(日)

- 10:00～12:00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので，ご了承下さい。

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は，所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また，修了試験合格後，所定の手続きを経て，日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

修了試験は平成28年8月7日(日) 10:00～12:00に東京慈恵会医科大学で行います。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集（最近8カ年400題）正解/解説付」（税込：2,000円）がありますので，ご利用下さい。

下記の“9. 申込書送付先および問い合わせ先”へお申込み下さい。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し，それに準じて講義が行われます。また，プレゼンテーション資料も当日配布致します。

5. 受講料

受講料は（Ⅰ）基礎コース，（Ⅱ）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円，単科コース（基礎コース，応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが，定員に余裕があれば，単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば，全コース受講後修了試験を受験することができます。尚，学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし，学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが，2コース受講後に行われる修了試験に合格し，「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し，自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士，同実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位，応用コース5単位が認定されます。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル4F

一般社団法人 学会支援機構内

日本体力医学会スポーツ医学研修会 係

電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012

E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第27回日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申込ます。(該当する□にレ印をつけてください。)

第27回 基礎コース

第27回 応用コース

試 験

氏 名 _____

連絡先 〒 _____

TEL： _____ E-Mail： _____

第30回日本体力医学会近畿地方会のご案内

日 時：平成28年2月20日(土) 10:00~17:00
 会 場：大阪市立大学医学部 4階 大講義室
 アクセス：JR天王寺駅，近鉄あべの橋駅，地下鉄御堂筋線・地下鉄谷町線天王寺駅，いずれも徒歩10分
 当番幹事：吉川貴仁（大阪市立大学大学院医学研究科 運動生体医学）

一般演題

セッションⅠ【高齢者の運動・体力】4題
 座長：田中史朗（大阪産業大学）
 セッションⅡ【競技スポーツ】3題
 座長：大久保 衛（ダイナミックススポーツ医学研究所）
 セッションⅢ【代謝・遺伝子】4題
 座長：中谷 昭（奈良教育大学）
 休憩
 総会
 セッションⅣ【歩行・姿勢】4題
 座長：川合 悟（帝塚山大学）
 セッションⅤ【生活・健康】4題
 座長：藤本繁夫（相愛大学）

シンポジウム 15:00~17:00
 テーマ「体内時計からみた体力医学」

座長：平川和文（京都学園大学）
 吉川貴仁（大阪市立大学）

- 1) 早稲田大学先進理工学研究科 電気・情報生命専攻
 教授 柴田重信先生
 「基礎研究としての体内時計と食・運動の相互作用」
- 2) 同志社大学スポーツ健康科学部
 助教 高倉久志先生
 「時計遺伝子発現リズムに基づいた持久的運動トレーニングが骨格筋の有酸素性代謝能力に及ぼす影響について」
- 3) 筑波大学人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻
 教授 徳山薫平先生
 「ヒューマン・カロリメータによる間接熱量測定：運動する時間帯の違いが24時間の脂肪酸化に及ぼす影響」
- 4) 早稲田大学スポーツ科学学術院
 教授 坂本静男先生
 「運動実施時間帯の相違による脂質代謝，ホルモンおよび炎症性サイトカイン分泌応答への影響」

問い合わせ：

TEL: 06-6645-3790 FAX: 06-6646-6067
 大阪市立大学大学院医学研究科 運動生体医学
 吉川貴仁

編 集 後 記

第65巻1号(2016)掲載の原著論文6編をお届けします。昨年の9月の学会理事改選に伴い、編集委員会の構成メンバーも交代しました。新しい編集委員会が担当した最初の「体力科学」をお届けすることになります。

論文が投稿されてから査読を経て受理されるまでの期間に関心を持たれる読者が多いと思いますが、早いものでは2か月未満、長いものでも5か月余りという速さです。投稿された論文、正しくは受理された論文の完成度が高いことに加えて、査読委員の迅速な審査による結果と言えます。査読を担当して頂いた方々には厚く御礼申し上げます。

掲載した6編の内容は、非肥満型2型糖尿病ラットのトレーニング効果に関するもの、糖尿病患者の足底触圧覚に着目した研究結果、ラット骨格筋における糖輸送体GLUT-4タンパク質の発現に関する新たな知見、筋音(筋

振動信号)に関する知見、アスリートの上気道感染症に関する調査結果、小学生サッカー選手におけるOsgood-Schlatter病の発症要因に関するものです。「体力科学」の名に相応しい内容と言えます。

また、第70回日本体力医学会大会(和歌山)の指定演題である大会長講演や特別講演、シンポジウムなどの概要をお届けします。さらに、日本体力医学会関東地方会の抄録と日本体力医学会中国・四国地方会の抄録が掲載されています。毎年秋に、国民体育大会が開催される都道府県で学術大会が開催されています。全国各地からの発表内容をご一読いただくとともに、地方会での発表内容にも目を向けて研究者・現場指導者相互の交流を図って頂ければ幸いです。

田中喜代次

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.65, No.1

体 力 科 学 第 65 巻 第 1 号

平成 28 年 1 月 25 日 印 刷

平成 28 年 2 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

田 中 喜 代 次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012
E-mail : jspfsm@asas.or.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120
E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社